

# 精密治療のためのイムノペプチドミクス

## MHC 提示ペプチドの包括的な定性的および定量的プロファイリング

免疫ペプチドームを理解して標的とすることは、腫瘍免疫学や自己免疫療法の進歩によって重要となってきていますが、これらの研究者は感度や再現性、サンプル入手の制限に関連する課題によく直面します。Biognosys 社の高度な免疫ペプチドームのプロファイリングサービスとカスタマイズされたバイオインフォマティクスにより、最小限のサンプル数でヒトおよび前臨床種における MHC 提示ペプチドの正確な同定と定量化が可能になります。Biognosys 社は TCR-T 療法、がんワクチン、免疫調節療法の分野で豊富な経験を有し、精密治療におけるイノベーションを推進する信頼できるパートナーです。



### 主な用途

#### MHC クラス I および II 結合ペプチドの偏りのないプロファイリング

提示されたペプチドの包括的でラベルフリーな発見を提供し、差次的に調節された疾患特異的なペプチドを同定します。

#### 免疫ペプチドのターゲット定量

カスタム免疫ペプチドアッセイでは、ラベル付けされたペプチドをリファレンスとして使用し、MHC 複合体によるペプチドの提示を確認し、細胞あたりの最小コピー数を推定します。

#### ネオアンチゲンディスカバリー

標準的なプロテオームとクライアントが提供する非標準的な配列のライブラリーの両方を検索することで、新しい疾患特異的な新抗原を同定します。

#### 免疫調節プロファイリング

ペプチドの長さの分布を含む免疫ペプチドに関する定量的および定性的な洞察を得て、新しい免疫調節療法の効果を理解します。

#### 自己抗原プロファイリング

免疫ペプチドームを包括的にプロファイリングすることで、MHC 関連の自己免疫疾患に関与する自己抗原を特定できるようになります。

### パフォーマンスおよびサンプル条件

	深度	サンプル量	イムノペプチドのエンリッチメント	
<b>細胞</b>	クラスあたり 10,000ペプチド*	25 × 10 <sup>6</sup> 個	<b>ヒト</b>	HLA クラス I (W6/32 Ab† 使用) HLA クラス II (L243 Ab‡ 使用)
<b>組織</b>	クラスあたり 8,000ペプチド*	新鮮凍結組織 10 ~ 15 mg	<b>マウス</b>	MHC クラス I (M1/42.3.9.8 Ab§ 使用) MHC クラス II (M5/114 Ab¶ 使用)
			<b>ラット</b>	MHC クラス I (OX18 Ab# 使用)

\* 組織タイプや生物種に依存 †HLA-A, B, C. ‡HLA-DR. §H-2. ¶I-A/I-E. #RT1A.

略称 (表示順) MHC: Major Histocompatibility Complex / TCR-T: T Cell Receptor T Cell Therapy / HLA: Human Leukocyte Antigen / Ab: Antibody

**Filgen®** フィルジェン株式会社  
biosciences & proteosciences

【お問い合わせ】 受託解析部

TEL : 052-624-4388 E-mail : support@filgen.jp

URL : https://filgen.jp/

代理店

(Mar.,2025)